

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11090	3・4	後期・前期	必修	5	225
授業科目名 (英文)	母性・小児看護学実習 (Clinical Practice in Maternity and Pediatric Nursing)				
担当教員名	○篠木絵理／米山万里枝／橋元千久佐／槌谷亜希子／ 富岡晶子／高山裕子／岡田弘美				
授業の概要及び到達目標					
<p>本科目の受講によって学生は、育成期にある人々、妊産褥婦と新生児及びその家族、こどもとその家族について理解し、それぞれの立場と対象者に適した看護を実践する基礎的能力を養う。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 育成期にある人々の特徴について説明できる。 2. 育成期にある人々に必要な援助を明らかにすることができる。 3. 育成期にある人々に必要な援助を実践することができる。 4. 育成期にある人々を支援するチームの一員として役割を果たすことができる。 5. 母性・小児看護学実習を通して、自己の課題を明らかにできる。 					
準備学習等					
<p><履修開始まで></p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の事前課題に取り組んでください。 <ol style="list-style-type: none"> 1) ナーシングスキルを用いて、母性看護学及び小児看護学に関する課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・正答率目標など、詳細は臨地実習ガイダンス（8月）にて配布する資料を参照する。 ・期限までに各正答率に達するよう、教科書、授業資料、国民衛生の動向を活用し学習する。 ・ナーシングスキルの取り組み状況と正答率目標の達成状況はシステム上で随時確認します。 2) 母性様式3を用いて、分娩第1期～第4期までの目標と計画（時期別の標準看護計画）を立案する（妊産褥婦と新生児及びその家族を対象とした実習で活用します）。 <ul style="list-style-type: none"> ・母性・小児看護学実習ガイダンス時（9月）に確認します。 <p><実習初日></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習における自己の課題を明確にし、実習に必要な知識・技術を確認し、不足部分は補充し活用できるようにしてください。 <p><実習中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性・小児看護学実習要項を参照し、到達目標・行動目標をふまえて日々の課題に取り組んでください。 <p><実習最終日></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録や学習成果物は、学習経過がわかるように全て揃えてください。 <p style="text-align: right;">（予・復習 1時間×25日）</p>					
成績評価の方法	妊産褥婦と新生児およびその家族を対象とした実習：40% こどもとその家族を対象とした実習：40% 学内実習・最終レポート：20% 各対象の実習における学修評価は、実習内容、実習記録、自己評価、最終レポートを総合して評価します。 最終レポート課題および作成要領は実習要項を参照のこと。				

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学[1]母性看護学概論」(森 恵美他著：医学書院) ・「系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学[2] 母性看護学概論」(森 恵美他著：医学書院) ・「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第 2 版」(太田 操編著：医歯薬出版) ・「系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論」(奈良間美保他著：医学書院) ・「系統看護学講座 専門分野 II 小児看護学[2]小児臨床看護各論」(奈良間美保他著：医学書院)
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「ナーシンググラフィカ母性看護学②：母性看護の実践」(小林康江他編、メディカ出版) ※ ・「母性看護学 1 妊娠・分娩 第 2 版」(村本淳子他編：医歯薬出版) (※) ・「母性看護学 2 産褥・新生児 第 2 版」(今津ひとみ他編：医歯薬出版) (※) ・「ウェルネスからみた 母性看護過程＋病態関連図 第 2 版」(佐世 正勝編：医学書院) (※) ・「病気がみえる vol. 10 産科 第 4 版」(医療情報科学研究所編：メディックメディア) (※) ・「こどもの病気の地図帳」(鴨下重彦他著：講談社) (※) ・「小児看護実習ガイド」(筒井真優美編：照林社) ※ ・「小児臨床検査ガイド」(五十嵐隆他編：文光堂) ※ ・「今日の治療薬」(浦部昌夫他編：南江堂) ※ <p>この他、適宜紹介します</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 ・母性看護援助論 I, II 及び小児看護援助論 I, II の単位を取得していることが、本科目を履修する前提条件となる。 ・「母性・小児看護実習要項」及び「看護学実習要項」をよく読み、理解して準備学習に取り組んでください。 ・実習における日々の記録については、コメントを記載して返却するので、以降の実習で活用してください。 ・各教員のオフィスアワーについては、履修案内の「オフィスアワー」の項を参照してください。

授 業 計 画

I. 実習期間

指定された 5 週間のうち、妊産褥婦と新生児及びその家族を対象とした実習を 2 週間、こどもとその家族を対象とした実習を 2 週間、学内実習を 1 週間とする。

		1 週目					2 週目					3 週目					4 週目					5 週目				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
A	学内	妊産褥婦と新生児及びその家族を対象とした実習										こどもとその家族を対象とした実習										学内実習 (共通)				
B		こどもとその家族を対象とした実習										妊産褥婦と新生児及びその家族を対象とした実習														

II. 実習場所

<妊産褥婦と新生児およびその家族を対象とした実習>

NTT 東日本関東病院他、東京都内および近郊の産科病棟・外来を有する施設

<こどもとその家族を対象とした実習>

大森赤十字病院、昭和大学病院、済生会中央病院、済生会横浜市東部病院など

III. 実習内容

<妊産褥婦と新生児およびその家族を対象とした実習> (米山、橋元、槌谷)

- (1) 病棟・外来オリエンテーション
- (2) 産褥時・新生児期の母子受け持ち実習(産褥・新生児期の母子を受け持つ)
- (3) 妊娠期の看護実習(産科外来、助産師外来、母親学級見学等)
- (4) 分娩期の看護実習(分娩期の産婦を受け持つ)
- (5) 育児期の看護実習(育児用品調査、子育て支援施設見学等)

<こどもとその家族を対象とした実習> (篠木、富岡、高山、岡田)

- (1) 外来実習(看護師と共に、診察、検査・処置、健診をうけるこどもの援助等を実践する)
- (2) 病棟実習(看護師と共に、健康障害のあるこどもの援助等を実践する)

<学内実習> (全担当教員)

- (1) 実習ガイダンス/事前準備
 - ①母性・小児看護学実習の目的・目標を踏まえて、自己の課題を明らかにし、事前準備を行う。
- (2) 実習全体のまとめ・学びの共有
 - ①実習全体の学びを振り返り、到達目標 1~3 に基づき考察したことをレポートにまとめる。
 - ②学びを共有し、育成期にある人々に必要な援助について理解を深める。
 - ③自己の目標に対する達成状況を評価し、今後の課題を明らかにする。

☞詳細は本科目の実習要項参照